

鈴木 信子氏

愛知県一宮市に育つ。

- 24歳 名古屋大学医学部卒業、名城病院にて臨床研修。
- 25歳 名古屋大学医学部小児科入局、結婚。
- 26歳 安城更生病院小児科勤務（～28歳）。長男出産（産休2ヵ月）。
- 28歳 長女出産（産休2ヵ月）、夫の内地留学（大阪大学、～33歳）を機に育児休職。
- 30歳 次男出産。
- 36歳 トヨタ健保乳幼児検診のパート医に（週1、～39歳）。
- 37歳 あわせて王子製紙診療所のパート医に（～39歳）。
- 39歳 中部労災病院小児科のパート医に。
- 42歳 小児科認定医取得、自宅の隣地で開業。
- 43歳 医療法人に改組。
- 45歳 夫が日本初の自動予約システムをNTT-ITと共同開発。
- 49歳 ホームページを開設
(<http://www.wakabadaai-clinic.or.jp/>)
- ▶55歳 夫の産婦人科の併設開業
- 50代 子どもたちの結婚と子育てを援助したい。
- 60代 自分たちの趣味に時間を取りたい。

鈴木氏は大学時代の同級生である夫（55歳・前愛知医科大学産婦人科助教授）との夫婦水入らずの生活で、クリニックは自宅に隣接している。夫は研究生生活が忙しかったために、休日に遊園地に連れていく程度で、日々の子育ては自分と結婚当初から同居していた祖父母とでしていた。3人の子どものうち2人は医師となり既に独立、次男が工学部大学院に在学中で同居している。

医師が少なく、まだ年間3600人しか卒業しない時代であったので、病院が医師の条件をのんでくれたように思う。縁もゆかりもない土地では仕事もなかったが、夫が名古屋へ戻り産婦人科の医局長になった。小児科の同門会などで復帰したい意向をアピールし、また名古屋を離れる前の勤務が真面目と思われていたので、小児科の医局長から声がかかった。次男の育児にも手がかからなくなった時期に、元名古屋大学小児科教授鈴木榮氏のお供で、トヨタ健保の乳児健診から再スタートを切った。企業内診療所も閑職だったため、本を読み直す時間が十分に取れた。中部労災病院でよう

やく本格的に復帰できたが、そのときの加藤部長は名古屋大学小児科在局中にお世話になった先輩で、プランクを承知の上でいろいろと採用について配慮してくださり非常に感謝しているという。こうして錯落としをしている最中に、いつまでもパート医では医師過剰時代に入ったのでリストラの対象になるだけだよ、と夫にいわれ、「もうちょっととトレーニングしてから」という計画を早めて、自宅横での開業に踏み切った。

親との同居は結婚当初からでないとなし。子育てがたいへんになってから同居、というのはご都合主義だと思われやすいからだ。また、親の介護が必要になってから、というのともまくいかな例を見てきている。意思疎通は前提として欠かせないのだ。

子育てを経て母親の気持ちもわかる医師になっていったと思う。そのときそのときで、背伸びせずにやれる範囲の仕事をやってきた。夫と異なり大学での研究生生活はほとんど経験しない医師になったが、子育てでもほぼ順調にいったので、現在はこのやり方でよかったと思っている。

成功する医療空間の創造

それが私たちの発想理念です



当社は理想の医療を現実化するため医療施設の多様化、個性化のニーズを調査、分析、検討し、信用、責任、誠意を基本に医療スペースの創造を心がけております。

カタログ
ご請求下さい

相談無料

各種医院・薬局の 新築 改築 リフォーム等 全てお任せ下さい！

東京都知事免許 (4) 第88629号

医療・商業建築・
企画・設計・施工

株式会社 **インティ**

〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-46-16小野木ビル606

TEL.03-3370-7078 FAX.03-3370-7075

E-mail:inty@d9.dion.ne.jp

♡周りの女性医師の結婚&出産♡

同期の女性は96人中10人。全員が結婚し2人以上出産している。その当時は、結婚するのが当たり前で、女一人で生きていく風潮は少ない時代だった。全員が医師を続けて、途中完全に中断した自分は珍しい存在。多くの同級生は、産後しばらくはパート医で勤務を続け、やがて常勤に復職している。他業種の方とは生活のリズムが違いすぎて難しいのか医師と結婚した人が多い。定時帰宅で協力してくれる配偶者を選ぶか両親との同居だとうまくいくようだ。他学部の教官、高校の先生と結婚した女性もうまくいっている。